

林退会だより

第 66 号
2026年1月1日

林 野 関 連
退 職 者 の 会

東京都文京区
大塚3-28-7
林野会館3階
電話03-6912-0403

生活 福祉 平和を守る ために全力を上げよう

林野関連退職者の会 会長 石川昇

会員、ご家族の皆さん新年明けましておめでとうございます。

さて、昨年11月に開かれた社会保障制度審議会医療保険部会は、高齢者にさらなる負担を求める議論がな

され、年内にはその方向付けを行うとしています。

まずはOTC類似薬(湿

布薬や解熱鎮痛剤、アレルギー薬などの保険外です。次は現在70歳以上を対象に実施されている「外来特例」の見直しです。さらに後期高齢者の窓口負担3割対象者の拡大です。これは2027年度から制度化の考えです。

介護保険では現行の2、3割負担者を拡大しようとするものです。特に問題な

のは世帯年収に加え新たに預貯金、株式配当など金融資産も判断基準に導入しようとしていることです。これらは到底認め

るわけにはいきません。退職者連合を先頭に断固取り組んでいく必要があります。

石破政権の後を受けて誕生した高市政権は、矢継ぎ早に防衛力強化の方針を打ち出しています。防

衛費2%の前倒し実施、米

トランプ政権に迎合する3

私たちは「生活」「福祉」

・5%防衛費への増額とこれらに関連する「安保3文書」の改定、防衛装備輸出3原則と5類型の見直し、

ます。

「非核3原則」の検討、防衛産業の育成強化などです。2025年度補正予算では

既に防衛力強化などで1・6兆円を確保しています。これらはいずれも本年中にはまとめる方向にあります

が、憲法改正の動向とも絡んで、軍事力にたよる極めて危険な動きと言わなくては

が、憲法改正の動向とも絡んで、軍事力にたよる極めて危険な動きと言わなくては



「昇 天」川村勝(東北・中里林退会)

政治とカネ 逃げまどう高市首相 後押しする自維合意 「そんなことより」発言に見る真相

「政治とカネ」をめぐる とより」発言は、単なる軽
高市早苗首相の「そんなこ 口ではなくて、自維連立政



そんなことより

横田 吉昭

朝日新聞8月6日

権の一番触れられたくない
恥部で隠して別の話題に反
らせようとすると彼女の深層
心理の露出と見なければな
らない。

11月26日の党首討論で、
立憲民主党の野田佳彦代表
が公明党と国民民主党が共
同で衆議院に提出した企業・
団体献金の規制強化法案に
ついて、今国会中の成立に
向けて協力するつもりがあ
るかを問い糺したのに対し、
高市は「そんなことより定
数削減をやりましょうよ」
とはぐらかした。

後に参議院でこの真意を

追及され、「政治資金のあ
り方を追求することと議員
定数削減を追求することは
どちらも大切」と繕ってみ
せたものの、それが嘘であ
ることは、10月20日付の自
維両党の「連立政権合意書」
そのものが示している。

まっているのかどうか。
ただ単に制度を変えれば
政治が良くなるかの安易な
態度で別の制度に飛び移ろ
うとするのは正しいのだろ
うか。

問題は、本筋の「政治と
カネ」の問題を「そんなこ
と」と言って棚に上げてし
まうための偽装として「議
員定数1割減」論があり、
さらにそれを何となく意味
ある「改革」に見せかける
ために、定数減だけでなく
そのついでに中選挙区復活
論も絡めた議論に持ち込め
うという狙いが覗く。

国民不在の密室での駆け
引きだけで出来上がった自
維連立合意が日本の政治を
ますます訳の分からぬ所へ
引き摺り込んでいく。

『高野孟のTHE JOURNAL』
より

不透明な政治を繰り返すな！

歴史認識欠如こそ存立危機状態

高市首相「台湾有事」発言の撤回を求める

11月25日、「高市発言撤回！日中戦争を煽るな！官邸前緊急行動」が行われ約500人が参加しました。

高市発言は、中国が台湾に武力を用いた場合、日本が集団的自衛権に基づく武

力行使が認められる「存立危機事態」になり得るとした。これは「一つの中国」の原則に背くものです。

中国は、発言の撤回を求め、日本への渡航自粛などが発言し、「安倍元首相で外交紛争に結びつきかけな

本意」と糾弾しました。
「高市発言こそが日本と市民の危機状態。首相は歴史認識が欠如し日本を脅かしている」と批判し、19世紀半ば以降、西洋列強や日本の帝国主義が中国に与えた屈辱の歴史に触れ「東アジアの平和には歴史の認識が必須だ」との訴えが続きまし



「退職者の再結集の場」が必要

【四国】

本山支部が再結成総会を開催

本山支部は、10年前に

た。

当時の支部長が亡くなられてから、新たな支部長の国内情勢、とりわけ高散状態となっていました。き、見過ごせない状況が

北森林管理署会議室で、四国林退会・本山支部の再結成総会を開きました。支部会員9名の中、出

委員、森下前分会委員長から結成のお祝いや激励の挨拶を頂きました。
新しく支部長に高井雄司氏を選任。高井支部長から長年に渡り国有林で働き、組合運動にも参加されていた方達も歳を重ね、働きづらい状況になって来ているのが実態です。無理せず自分たちが出来る範囲のことを取り組んで行こうと決意し合いました。
高井雄司 本山支部長



身の丈に合った活動を展開して

【帯広】

支部代表者会議で当面する課題を議論

帯広地方林退会会は、10月18日、帯広市で支部代表者会議を開催し、一年間の林退会活動について議論。組織実態を確認しました。

会議は議長に大樹支で44名の会員が減って、このことから、諸活動が困難なことが訴えられました。

補完できないとか、コロナ禍で集まりを中止していたが、再開できないでいる。会員以外の者の共済更新などの手続きをしている支部もありそれが大変、などの諸問題の提起が多

く支部からありました。困難な状況下ですが、総括では、7月の参院選や反戦平和の取り組みの一環としての高校生平和大使派遣でのカンパや署名行動でも一定の成果を上げたことを報告。

参院選で帯広林退会が取り組んだ「小沢まさひと」については、全道では有権者の440万人中6248票で

したが、帯広管内では50万人の有権者中（全道の11%）得票は1382（全道の21%）と頑張りました。少なくとも支部のある町村では2桁の得票でした。

核兵器廃絶を求める署名も約1000筆集約しています。

こうした結果がでていますが、会議では前記したように各支部ごとに活動状況の困難さが出されました。具体的には、会長が何年も代理で続いている、事務局長と会長の兼務が、いつまでもつか、最大の役員問題について。

松永昭治（帯広会長）

こうした結果がでていますが、会議では前記したように各支部ごとに活動状況の困難さが出されました。具体的には、会長が何年も代理で続いている、事務局長と会長の兼務が、いつまでもつか、最大の役員問題について。

松永昭治（帯広会長）

こうしたことから、会議では、今まで以上に地方と支部間の連絡を密にしながら組織維持を図って行く、特に支部役員が孤立しないよう励まし合いながら頑張りあえる体制を作っていく、などを確認しました。

いずれにしても、林退会組織が平均年齢80歳を越えている現実を認識し「できることから、できる範囲で、背伸びしないで、身の丈に合った」活動を。また組織現状を再認識し合った会議でした。



松永昭治（帯広会長）

松永昭治（帯広会長）

松永昭治（帯広会長）

松永昭治（帯広会長）

編集
後記

▼インフルエンザのおかげで食欲がなくなり10日間近くボーンとしていました。家族全員（3人）が感染すると大変ですね▼ほぼ30年ぶりの経験ですが、後期高齢者の仲間入りを痛感しました▼ワクチン代が1500円だったのが助かりました。

（い）